多自然川づくり取り組み事例

タ イ ト ル	：武蔵川における重要生物の保全～水辺環境の復元を目指して～		
水系／河川名	：武蔵川水系　武蔵川	河川分類	：中小河川
河川の流域面積	：30.6km2	整備計画流量	：335m3/s（W=1/50）　セグメント：1
事　　業	：河川改修	事業開始年度	平成13年度
目標設定	：定量的	段　　階	：C（ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ・評価時）
課題・目的（主な）	：貴重種、特定動植物の保全、水際域の保全・再生・創出		
工法（主な）	：掘削（河床）、移植、植樹		
配慮事項（主な）	：委員会、協議会等の開催		

背景・課題、目標設定

◆背景

・平成17年に有識者や地元住民の意見を反映した川づくりを実施するため、「武蔵川川づくり委員会」を設立した。

・環境調査の結果、事業区間に環境省、大分県で絶滅危惧Ⅱ類であるクルマヒラマキガイ、大分県で絶滅危惧Ⅱ類であるシロネが確認された。

・川づくり委員会での協議の結果、生息・生育地が大分県内でも限られ、武蔵川においても局所的であること、さらに生息・生育地が工事により大きく改変することから、重要生物の保全を考慮した川づくりを実施した。

◆目標

・重要生物であるクルマヒラマキガイとシロネの生息・生育環境を回復し、個体数を維持する。

・保全対策後の生息・生育状況をモニタリングし、今後の環境保全に向けた取組に活用する。

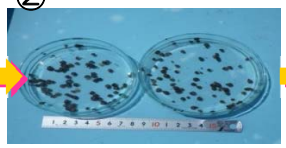
取り組み内容・対策例

クルマヒラマキガイ

①捕獲作業（工事直前）
②捕獲した貝
③安全な場所へ移動

①

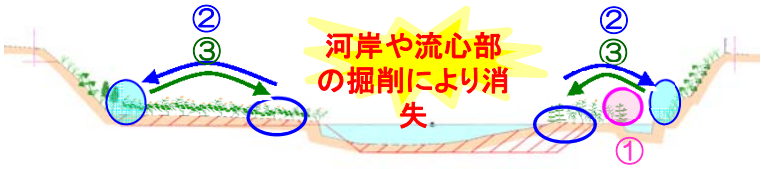
②



③

シロネ

①生息地の存置
②表土のはぎ取り、仮置き
③水際部へ撒き戻し



ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ結果、ｱﾋﾟｰﾙﾎﾟｲﾝﾄ、今後の対応方針

■クルマヒラマキガイ

・対策により、個体数を維持し、移動先でも繁殖をした。

・移動先の選定（水辺植生のそば）が功を奏した。

・工事により改変した場所でも繁殖し、生息環境が回復している。

・個体数を維持・繁殖するためには、水際の創出が重要である。

■シロネ

・存置よりも撒き戻しが有効であった。

・水際は生育が良好であるが、乾燥した平地、影となった場所（他の植物に覆われる）での生育は困難であった。

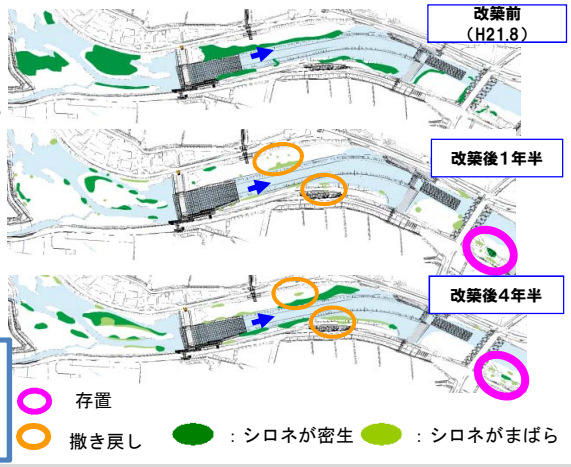
・工事中・後の水位の変化を予測し、存置・撒き戻しともに、良い生育条件を選定することが重要である。

今後の保全対策

・河床掘削などによる湿地の確保

・地元との協働による維持管理の推進

→外来生物の除去など、生態系の維持に努める。



備考

問い合わせ先	大分県　国東土木事務所　建設・保全課
電話番号	0978-72-1321